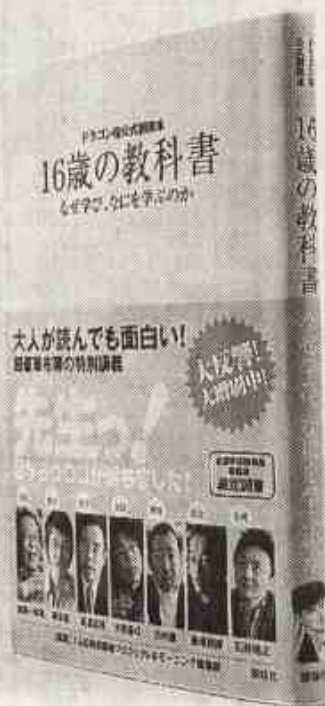


# ベストセラーの 裏側

人気漫画の関連本は数多く出版されているが、これほどのロングセラーは珍しい。7人の特別講義プロジェクト&モーニング編集部編著『16歳の教科書』（講談社・780円）は、テレビドラマにもなった漫画『ドラゴン桜』（三田紀房作）の「公式副読本」。2007年6月刊行で、これま

## 7人の特別講義プロジェクト「16歳の教科書」

「だから、16歳といういま、きみたちに真剣に考えてほしい。自分が勉強する理由、そして自分が勉強するものの正体を。」



でに25刷を重ね、発行部数は41万部に達する。漫画の関連本だが、中身は至ってまじめだ。「なぜ学び、何を学ぶのか」をテーマに、7人の講師が「特別講義」をする構成で、日本語学者の金田

一秀穂氏や東京都の公立中学で初の民間出身校長となった藤原和博氏らが登場する。漫画では東大合格を目指して様々な受験テクニックが伝授されるが、本書は「一種の人生訓」（講談社第3編集

局の入江潔氏）を説く。

初版2万部で07年の増刷分は6千部。売り上げが大きく伸びたのは翌年だった。きっかけを作ったのは、鳥取市の国道沿いにある今井書店吉成店。この本に注目した店員が店先の目立つ場所で平積みし、登場人物のイラストを入れた手書きのPOP（店頭販促）広告を立てた。すると、同店が本書の売り上げ全国一になった。「漫画の関連本が地方から火が付くのは異例」（入江氏）だ。講談社は08年春から、他の書店にも平積み販売を推奨。予想を上回る反響があり、一気に版を重ねた。都心部だけでなく

## 説得力のある「人生訓」

郊外店でも売り上げが良いのが特徴で、08年秋には15万部を突破。息の長いヒットが続いている。購買層は、ターゲットである中高生以外にも広がっている。刊行当初から教育関係者や中高生の子供を持つ父母がよく買っていて、最近では20、30代の若いサラリーマンにも人気だ。「講師の言葉には説得力があり、様々な職業の人にもヒントになる。読者からは『もっと早くこの本に出会いたかった』という感想がよく届く」と入江氏。講談社は今年6月に第2弾を刊行し、こちらも現在、4刷8万5千部と売り上げは好調だ。